構造計画

基本方針

■ 丸の内駅舎を駅・ホテル・ギャラリー等として恒久的に活用するために必要かつ十分な安全性・耐震性を確保し、免震工法を採用します。

■ 重要文化財建物を永続的に保存するため、免震工法にするほか、レンガ壁や床組鉄骨などの既存架構を極力活用し、新たな補強を軽減します。

保存復原計画

基本方針

■ 未来へ継承すべき貴重な歴史的建造物として、残存している建物を可能な限り保存するとともに、創建時の姿へ復原します。

[保存] ● 1,2階の既存レンガ躯体と鉄骨及びS場側1,2階の既存外壁を保存します。

[復原] ● 広場側、線路側の3階外壁は新躯体を設置の上、化粧レンガ、花崗岩、擬石で復原します。
● 線路側1,2階外壁は既存モルタルを撤去の上、化粧レンガ、花崗岩、擬石で復原します。
● 屋根は天然スレート、銅板で創建時の姿に復原します。
● ドーム3,4階の内部見上げを創建時の姿に復原します。

施設計画

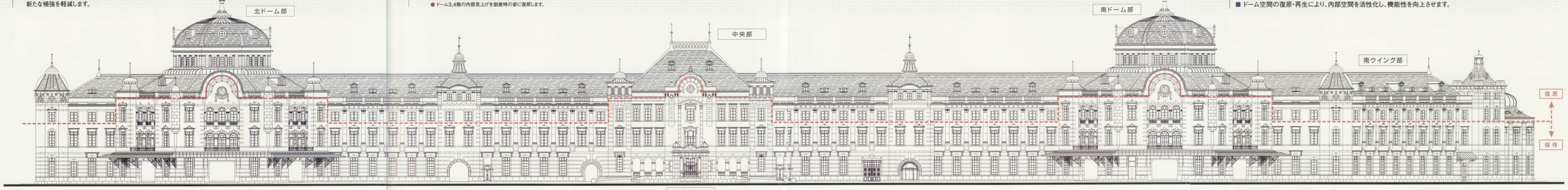
基本方針

■ 建物の保有する歴史的価値を有効に活かし、創建以来の「駅」「ホテル」としての機能、その後それに加わった「ギャラリー」としての機能を未来へと継承します。

■ 多様な現代の要求条件に対応するデザイン及び機能、設備を適切に付加し、歴史的建造物の新たなる利活用の姿を実現します。

■ 線路側空間はコンコースとしての有効活用及び丸の内駅舎の機能確保を優先します。そのために適正・有効な範囲・方法で、レンガ壁の改修等現代の駅舎としての空間整備を行います。

■ ドーム空間の復原・再生により、内部空間を活性化し、機能性を向上させます。

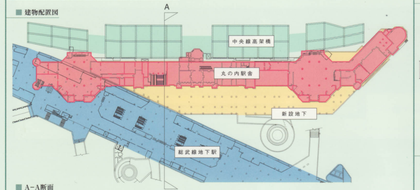


広場側立面図

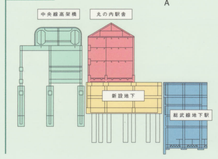
構造計画

丸の内駅舎は、総武地下駅・中央線高架橋に囲まれた特殊な条件の中、安全性・耐震性について十分に検討し構造計画を行っています。

■ 建物配置図



■ A–A断面



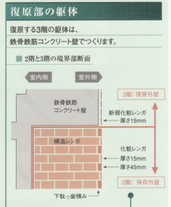
採用する免震工法は、新設される地下部分と現在の丸の内駅舎の間に約350台の免震ゴムと約160台のオイルダンパーを設けます。これにより、丸の内駅舎の耐震性能の向上を図るとともに、隣接構造物への影響を小さくすることができます。

■ 免震ゴム　■ オイルダンパー

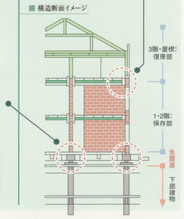
復原部の躯体

復原する3階の躯体は、鉄骨鉄筋コンクリート壁でつくります。

■ 2階と3階の延厚部断面



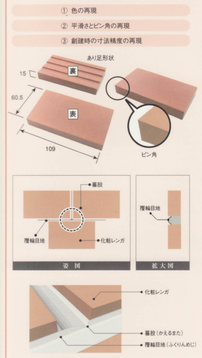
■ 構造断面イメージ



化粧レンガの再現

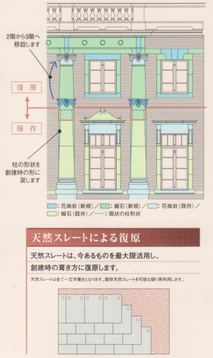
化粧レンガは、創建時のものに近づけます。

① 色の再現
② 平滑さとピン角の再現
③ 創建時の寸法精度の再現



3階外壁の復原

3階外壁の復原に伴い、柱の形状も創建時の姿に復原します。



天然スレートによる復原

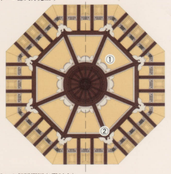
天然スレートは、今あるものを最大限活用し、創建時の青さ方に復原します。

天然スレートは全て一文字葺きとします。撤去天然スレートは可能な限り再利用します。

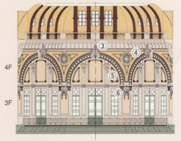
ドーム見上げ部の復原

ドーム3・4階と天井は、創建時の姿に復原され、干支や約2.4mの大きさにもなる鷲の彫刻など見事な造形が甦ります。

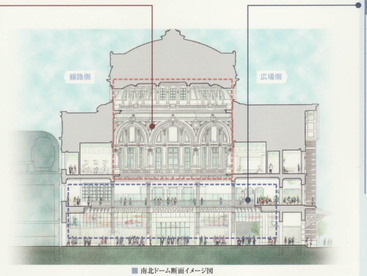
■ ドーム部天井見上げ



■ ドーム部展開図（3階以上）



※仕上材を新たに取り付ける箇所には安全を最優先に落下防止策を施し、復原します。　※ドーム見上げ部の色は今後、現状調査等を踏まえて決定します。



■ 南北ドーム断面イメージ図

■ 線路側立面図

ドーム1,2階のデザイン

ドーム1・2階は、復原部分の重厚さを残しつつ、機能に即した新しいデザインにします。ドーム見上げ部と調和を図りドーム全体として歴史と未来を融合したデザインにします。

■ 南ドームイメージ図

線路側空間の再生

線路側空間は、今までコンコースの壁により遮られていた丸の内駅舎の線路側外観を間近に見ることができます。丸の内駅舎と中央線高架橋の間から外光が差し込み、駅舎とコンコースが一体的で魅力的な空間として生まれ変わります。

■ 線路側コンコースイメージ図

ギャラリー計画

赤レンガの展示室で観しまれてきた東京ステーションギャラリーは、機能をさらに充実させたギャラリーになります。

■ 東京ステーションギャラリー

■ イメージ図

屋根裏の活用

これまで使われていなかった中央屋根裏の空間は、自然光があふれるホテルのゲストラウンジに生まれ変わります。

ホテル計画

丸の内駅舎内のホテルとして、多くの人々に愛されてきた東京ステーションホテルは、規模を拡大し、JRホテルグループを代表するホテルとして生まれ変わります。

■ 施設計画断面イメージ図

駅計画

駅施設は、これまでと同様に丸の内北口・南口・中央口の3つの乗降口やびゅうプラザ、駅長室など事務室が配されます。